

目指す自分であるために

宮崎県

宮崎神武館

中学1年 内田 瑞 稀

「あ～あ、負けちゃった…。次がんばろう。」

小学生の頃の私は試合に負けても悔しい気持ちは一瞬で、すぐに忘れてばかりだった。だが今は考えられない。中学生になって一本一本、一試合一試合がどれだけ大きなものなのか知ったからだ。

私は今年の春から生目中学校剣道部に入り、秋の大会では初めて先鋒を経験した。経験者二人、初心者一人という一年生三人の新チームだ。「失点を減らさなくてはいけない」「一本でも多く取らなくてはいけない」それは分かっていた。けれど先輩がいないことや先鋒の重圧などというプレッシャーで自分の心が負けてしまった。

「あの一本で県大会に行けるかどうかが決まっていたかもしれない。」

「あの時取っていれば…」

そう後悔が残っている。しかし、終わったことをふり返ったって何も変わらないのだ。だからといって、小学生の頃の私みたいにすぐにあきらめていた自分にはならない。「次がんばろう」ではなく、「次絶対に勝つ」のだ。もちろん、そううまくはいかないことは分かっている。勝つためにはたくさんの練習を重ねることが必要だ。だが、もちろん勉強だっておろそかにしたくない。そんな私はある言葉を目標にしている。

それは「文武不岐。」この言葉は神武館道場の入り口やTシャツにかかげられている。「文」は勉強、「武」は武道、その二つが一体となるという意味だ。私は二年生から五年生までは剣道を、六年生は勉強を中心としてきた。勉強と剣道を分けて考えていたのだ。だが中学生になって気が付いた。「勉強も剣道も必要なこと、どちらもがんばらなくてはいけない」ことを。そのため、私にとって「文武不岐」はまさに自分が目指す理想の姿であった。文武不岐を実行していると感じる先輩が、神武館にも生目中にもいる。その先輩方にあこがれ、勉強も剣道もがんばるようになった。

私はフライトドクターを目指している。そのために剣道を始めたわけではなく、剣道をやっていたからなろうと思ったのだ。剣道をするにつれ、「思いやり」「礼儀作法」「体力」が身についた。患者さんへの優しい声かけ、救うための体力がいるフライトドクターに剣道は役に立つことだと思う。フライトドクターになった十数年後の自分を想像して問いかける。

「剣道をしてきてよかった？」

「もちろん！」

その言葉が返ってくるように、今まで以上に剣道をがんばりたい。

「おねがいします。」

あいさつをして神武館道場に今日も足を踏み入れる。上を見上げると、そこにはいつも「文武不岐」という言葉がかかげられている。もしこれから私が、弱気になったり夢をあきらめそうになったら道場にこの言葉を見に行こうと思う。

「目指す自分であるために。」